

JSCPR 特別公開講座

オウム集団・あの事件は何だったのか？ —カルトメンバーと死刑—

2013年6月22日(土)

13:10 開場 14:00 開演

会場：日比谷コンベンションホール

13:10 より開演までの間、映像の上演がありますので、
お早めにお出かけください。

日時	2013年6月22日(土) 14:00～17:40 (13:10 開場)
内容	プロローグ：映像「虚像の神様～麻原法廷漫画～」—青沼陽一郎 (開場時刻 13:10 より上映) 基調報告1：現実感のなさ絶対者(滝本太郎) 基調報告2：地下鉄サリン事件と私(高橋シズエ) 基調報告3：何人もの被告人と面接、心理鑑定をして(西田公昭) パネルディスカッション(司会：櫻井義秀)： パネリスト：青沼陽一郎、高橋シズエ、滝本太郎、西田公昭 指定討論者：小野毅、楠山泰道、永岡英子
会場	日比谷コンベンションホール(大ホール) 千代田区日比谷公園1番4号(日比谷図書文化館 地下一階) (アクセスは裏面をご参照ください。)
司会	櫻井 義秀
参加費	当日受付、資料代 1,000 円 (学生・障害者の方：500 円)
その他	定員200名。ご予約は受け付けておりません。当日直接会場にお越しください。

主催

日本脱カルト協会(JSCPR)

後援

新学術領域「法と人間科学」研究

オウム真理教家族の会(旧オウム真理教被害者の会)

オウム真理教被害対策弁護団

本公開講座の趣旨

いわゆるオウム真理教事件から18年が経過した。

化学兵器サリンによる無差別大量殺人事件のむごさと恐ろしさは文字どおり世界を震撼させた。「真面目な多くの若者」がこの集団に入り、極悪非道の行為をした、それが世界を震撼させたのである。

刑事事件としては、捜査と裁判を経て、各犯罪の経緯、手段、状況、指示命令状況、集団が増長してきた経緯などは相当に明らかになった。しかし、どうしてメンバーが集い、教祖の指示とはいえこの極悪非道の行為を行うことができたのかは、まだまだ国民の共通認識に至っていない。

今、『オウム真理教』は団体規制法の観察処分の下に存在し、若者らを主なターゲットに、勧誘活動を続けている。勧誘される若者らには、オウム真理教が起こした事件を殆ど知らない者も多くなっている。

日本脱カルト協会会員らの少なからずは、一連のオウム裁判に次々と証人また鑑定人となり、何度も被告人に面談し、時には裁判所や家族の要請によりカウンセリングを重ね、また一部被告人の弁護人ともなってきた。一方で、会員らの数人はこれら死刑囚の起こした事件の被害者でもあり、命をかけてオウム真理教と闘い続けてきた者である。今、事件の残虐さ、一人ひとりの人生、裁判で分かったこと、オウム集団にメンバーが集い、教祖の指示とはいえこの極悪非道の行為を行うことができたシステムの恐ろしさを、若者を含めて改めて国民の共通認識とする必要がある。そして、類似事件の危険性はないのか、未来を見据えたとき何がもっとも大切なのか、12名の死刑を執行することが正しいことなのか、それらをテーマに会内外の発言者による、公開講座を開く。

報告者等ご紹介 (五十音順、敬称略)

青沼 陽一郎：フリージャーナリスト (オウム真理教被告の裁判を多数傍聴し、1998年からテレビ報道された「虚像の神様 ～麻原法廷漫画～」シリーズは、オウム真理教の笑える実態の裏にある底知れぬ怖しさを示した。)

小野 毅：弁護士、オウム真理教被害対策弁護団事務局長

楠山 泰道：大明寺住職(日蓮宗)、社会福祉法人立正福祉会家庭児童相談室本部相談室「青少年こころの相談室」室長、同上全国連絡協議会会長、日本脱カルト協会理事

櫻井 義秀：宗教社会学者、北海道大学大学院文学研究科社会システム科学講座教授、日本脱カルト協会理事

高橋 シズエ：地下鉄サリン事件遺族、「地下鉄サリン事件被害者の会」代表世話人

滝本 太郎：弁護士、オウム真理教被害対策弁護団、日本脱カルト協会理事

永岡 英子：オウム真理教家族の会 (旧称、オウム真理教被害者の会)、日本脱カルト協会会員

西田 公昭：立正大学心理学部対人・社会心理学科教授、日本脱カルト協会代表理事

【日比谷コンベンションホールへのアクセス】

東京メトロ (丸の内・日比谷・千代田線)
「霞ヶ関駅」 C3 または B2 出口徒歩 5 分

東京メトロ (千代田・日比谷線)
「日比谷駅」 A14 出口徒歩約 7 分

都営地下鉄 (三田線)
「内幸町駅」 A7 出口徒歩約 3 分

J R「新橋駅」日比谷口 徒歩約 12 分

※会場に駐車場はありません。日比谷公園内の『日比谷駐車場』(8:00-22:00 30分 250円)等をご利用ください

